

グローバルな時代に君たちは どう生きるか？

～国際機関で働く意義は何か？～

KIP講演会

2018年1月11日

慶應義塾大学 特別招聘教授

柏木 茂雄

講演概要

1. 「グローバルな時代」とは何か？
2. グローバル時代の働き方
3. グローバルな時代・社会を生き抜く

第1部

「グローバルな時代」とは何か？

「グローバル化」とは何か？

国境を越えた動き

もの、カネ、サービス、人、情報

国境を越えられないもの

規制、行政、国家主権

この二つをどのように両立させるかが課題となる

「グローバルな時代」とは何か？

今後の世界では「国境」がますます低くなり、「グローバル化」が一層進む。

「国際化」と「グローバル化」は違う。

- 「グローバル化」した世界では全ての国が同じ条件で競争することとなる。

大競争時代

世界は「大競争時代」を迎える。

国家間、地域間、企業間で、
実力を発揮できるものだけが
生き残る。

勝ち残るためには 実力を
身に付ける必要がある。

「競争」から落ちこぼれると、

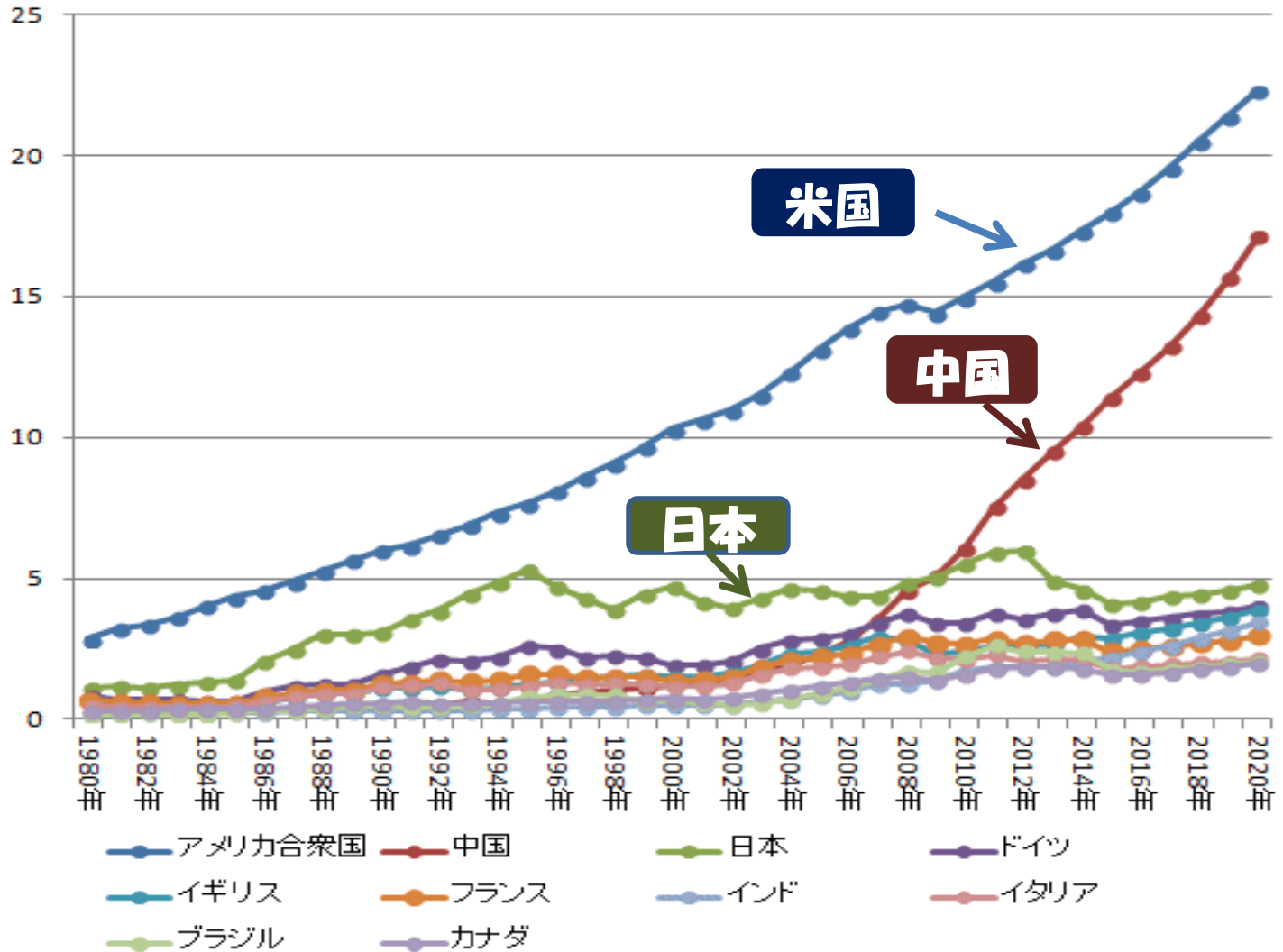


主要国名目GDP推移(1980年～2020年)
 (2016年時点の上位10位、米ドルベース)
 (単位:兆米ドル)(IMF予想含む)



我が国は
大丈夫
か？

【主要国
名目GDPの
推移】



第2部

グローバル時代の働き方

今後の世界はどうなるか？

変化の激しい時代を迎える



現在ある仕事の大半は
将来、なくなっている



将来の仕事の大半は
現在、存在していない

我が国も「大競争時代」とは無縁ではない




• 終身雇用、年功序列、横並びの時代から



• 実力主義、成果主義の時代へ



• 「同一労働、同一賃金」の意味するところ



• 個人が組織から「分化」出来るか？

「グローバル社会」 = 「海外」 ではない



• 国内でも「グローバル」な活躍が 必要かつ可能



• 外国人の上司、部下、取引先との仕事が増える



• 「内なるグローバル化」が進む



• これまでの考え方に拘泥しては落ちこぼれる

国境・国旗 を意識した生き方



例えば、オリンピック

国旗を意識しない働き方もある



例えば、野球のメジャーリーグ

経済のグローバル化が進めば、

国境を超えた競争 / 協調が行われ、

**国境を超えた利害調整、ルール
作りが行われ、**

**グローバルな「公」の
ための仕事が必要となる**

国際機関の重要性が高まる



**例えば、国際通貨基金(IMF)：加盟国数 188カ国、
スタッフ：160カ国から 2600名
(出典) IMFウェブサイト**

グローバルな社会

国家

言語

人種

多様な人
と付き合う

文化

信条

宗教

国際機関で働く魅力

• グローバルな視点を持ち、国境を意識せず働く

• 簡単ではないが、スケールの大きさ、充実感が格段に違う。

多様かつ優秀な人材と対等に働ける楽しさ

共通言語、共通ツール、共通の使命感

求められる資質



• **専門性**



• **コミュニケーション・スキル**



• **多様性に対する許容性、柔軟性**



• **常に自分の考えを持つ**

第3部

グローバルな時代・社会を生きぬく

新しい時代を生き抜くためには、

自分を知り、

自分の意見を持ち、

自分を磨く必要あり

「自分を知る」とは どういうことか？

- **自分で、自分のことを
どうやって知るか？**
- **自分で自分を見ること
によって、自分を知る
ことは、おそらく、
不可能。**



自分を知るためには何が必要か？

• 他者を通して、自分を知る。

• 異なる考え方と向き合ってみる。

• 例えば、多様な友人を作る、本を読む、海外に出て知らない世界を知る。

• 多様性を知ることにより、自分を知る。

「多様性」は何故重要か？

異質なものに触れる

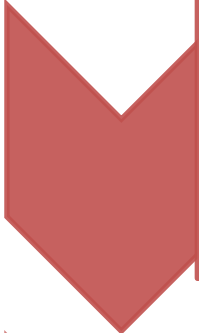


常識、既成概念から抜け出す



新たな発想につながる

「自分」を伝える



- **自分を知り、自分の考えをまとめ、自分を磨く努力をしよう。**



- **伝えるべきものがないのに、語学力だけを磨くのは意味がない。**



- **自分の考えを 他者、第三者に分かちやすく伝える努力をしてみよう。**

Challenge !!

You Can Do It !!

Good Luck !!